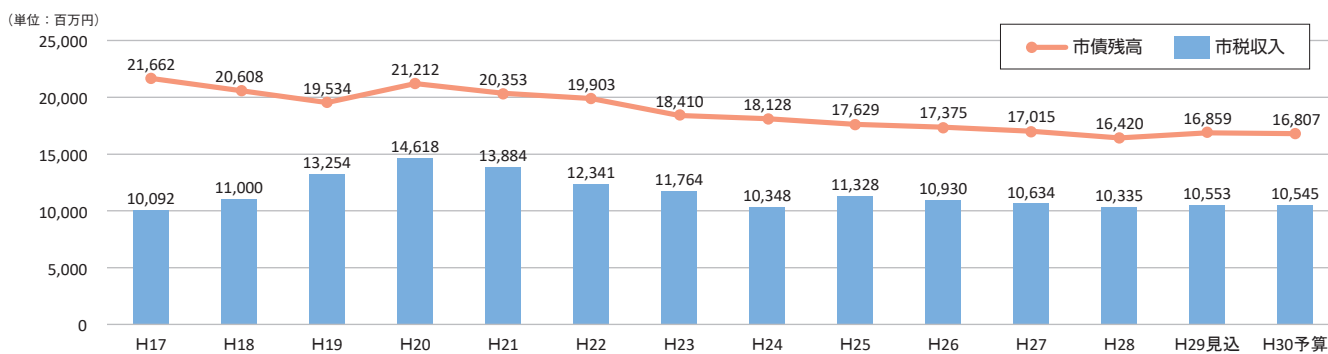


地方交付税・社会保障関係費・医療保険の 税負担・行財政改革の **ポイント!**

●市税収入と市債残高の状況

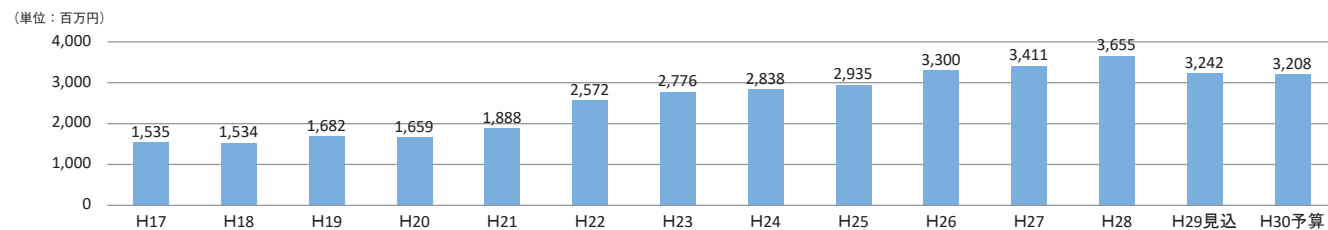
市税収入については、合併時の平成17年度から平成20年度までは増収傾向にありましたが、平成20年度のピーク時と比較すると約3割ほど減収となっています。

市の借金となる市債残高については減少傾向にあり、合併時の平成17年度と比較して、約2割ほど減少しています。



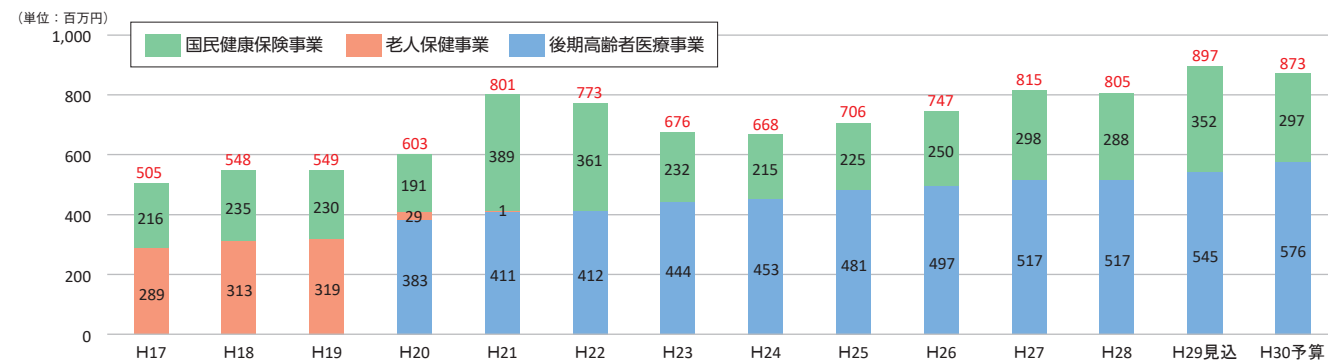
●社会保障関係経費(扶助費)の状況

生活保護や児童、老人並びに障がい者福祉などの社会保障制度に係る経費である扶助費は年々増加しており、合併時の平成17年度と比較して約2倍に拡大しています。



●医療保険の税負担(一般会計繰出金)

超高齢化社会の進展などにより医療保険に対する税負担が年々増加しており、合併時の平成17年度と比較して約1.7倍に拡大しています。



●平成30年度の行財政改革のポイント

市では、「第2次行財政改革大綱(取組期間 平成27～平成31年度)」に基づき、持続可能な行財政運営の確立を目指し取組を行っています。

平成27年度から平成29年度までの前期実施計画に引き続き、平成30・31年度の後期実施計画に取り組みます。

●協働や民間活力の活用等による事務効率の向上や受益者負担の適正化と事務事業の検証・評価による見直しにより、歳入の確保と歳出の削減を図ります。

●平成30年4月実施の組織機構改革により、効率的・効果的な行政運営の推進を図ってまいります。

●国民健康保険事業や公共下水道事業などの特別会計・企業会計において、独立採算制の原則のもと収入の確保と支出の削減を図るなど、一般会計からの繰入りに依存しないような経営の健全化に努めます。

※H17からH28までは決算数値、H29は決算見込み数値、H30は当初予算額

年収約420万円の
家計に例えると…
(市予算の1/5000)

5万人の台所事情

亀山家(市)の家計簿

平成30年度の一般会計予算を5,000分の1にして、家計簿に例えてみました。
市のさまざまな種類の歳入と歳出があり、一般の家計とは少し違った内容になっていますが、亀山家(市)の年間家計簿をつくってみると…

収入		支出	
29年度からの増減		29年度からの増減	
現金収入合計	360万円 (+14万円)	生活費用合計	293万円 (-6万円)
給料(基本給) ▶ 市税、分担金および負担金	217万円 (+6万円)	食費 ▶ 人件費	65万円 (-1万円)
給料(諸手当) ▶ 地方交付税、譲与税・交付金等	57万円 (-1万円)	医療費 ▶ 扶助費	64万円 (+2万円)
パート収入 ▶ 諸収入、使用料・手数料	12万円 (-1万円)	光熱水費などの雑費 ▶ 物件費、補助費等	109万円 (+6万円)
祖父母からの仕送り ▶ 国庫支出金、県支出金	74万円 (+10万円)	車などの修理代 ▶ 維持修繕費	11万円 (+1万円)
ローン(借入金) ▶ 市債	42万円 (-4万円)	教育費	44万円 (-14万円)
貯金の取り崩し ▶ 繰入金	22万円 (-5万円)	子どもへの仕送り ▶ 繰出金	37万円 (+1万円)
繰越金 ▶ 繰越金	2万円 (0万円)	ローンの返済 ▶ 公債費	45万円 (0万円)
		家や庭の建築・改修 ▶ 普通建設事業費、災害復旧費	47万円 (+9万円)
		貸付など ▶ 貸付金、投資および出資金	2万円 (+1万円)
		貯金など ▶ 積立金、予備費	2万円 (0万円)
収入合計	426万円 (+5万円)	支出合計	426万円 (+5万円)

平成30年度の家計は…

収入は、昨年度に比べて基本給が増える見込みのため、ローンの借り入れや貯金の取り崩しを少し減らす予定です。

支出では、教育費が大きく減った一方で、光熱水費などの雑費が増える見込みであるため、出費を極力抑えることとしています。家などの老朽化により改築・改修の費用が大幅に増えています。

今年度は一時的に基本給が増加しましたが、来年度以降はまた給料の減少が見込まれており、節電や節水に努めるのももちろんのこと、その他の出費についても無駄がないか徹底的に見直して節約します。また、貯金の取り崩しは最小限にとどめ、ローンを借り入れることにより支出の平準化を図り、家計の安定に向けてより一層努力していきます。

家計簿をしっかりとチェックして、収入に見合った支出を心がけたいですね。

